

刊夕日五十月九

常新日新聞

定価 一冊五錢
 月刊五錢
 半年二圓
 一年三圓
 廣告料 五錢
 印刷所 常新日報社
 印刷所 常新日報社

戊辰役の回顧

平陽老人

[十]

十二、東北諸藩の動き

七月十一日我が藩田中源之進（會津）二本松藩相丹羽丹波、其の他列藩の諸將須賀川に會し一舉して白河城を抜かんことを議し諸將の向ふ所を部署す。

此の日伊達慶邦の世子宗敦は仙臺を發し、即夜岩沼に宿し、十二日白石城に至り其より國境越河を経て福島、二本松迄も進まんとする豫定なりしが、時に平城危急を告げ、若し陥落せば相馬も亦安全を期すべからず、因つて急に議を變じ相馬國境駒ヶ峯に進む、此の日仙臺藩横田官平福島に來り板倉勝靜小笠原長行に勸めて共に白石城に至る。是より先き會津、莊内救解の行はれざるを憤り、奥

ノート

ズボンの寝押しは股下一寸位までのこと、全體を敷き込むとお尻の形が崩れる。

羽越三十一藩は攻守同盟を結びしと雖も、加盟諸藩中

には皆必しも一定不變の所信に基きて向背を決せしにあらざる、中には自ら四圍の形勢に制せられて事情已むを得ず加盟したるものなきにあらず、故に一朝天下の

【朝】すまし汁—とうふねぎ

【晝】煮びたし—はせ煮びたし、面とり大根、ふくめ煮

【晚】にしめ—茶せんなす

形勢會莊軍及び同盟軍に不利なる兆候を現はすに至れば、滲盟の舉に出づるものあるは亦自ら免れざる所なり、果せるかな七月に到り秋田藩、津輕藩の款を敵軍に送るあり、昨日の同盟郡と鋒を交ふるの已むを得ざるに到れり、津輕の仙臺へ與へし斷交狀は書辭鄭重なりしも、秋田に至りては仙臺の使節を斬りて西軍の歡を買ひしを以て同盟軍の憎む所となり連戦皆敗れ、領土は其の大半を失ひ、一時危急に瀕するに至れり



文藝誌「草汁」より
 六月抄
 高木風郎

働く

働きに働く事のありがたしおぼらかにふく口笛にして自ら口笛ふいて居たりけり生命かたむけ働き居れば手をつかねとやかう思ふたまゆらゆ世をいさどほることとはじめけり

D 風

大なる風來て家をふくらせぬあやに愛しき夏となりけり丸びるの六層樓の青空にあそべる風をしばし見て居り



平高野 町島野 前島野 堂斷定 地番所象

九月十六日乙酉九紫先負立するも金錢の爲に破談となる戌亥と辰己が凶「二黒」我が望事に福利を得る吉日なれば猛進して吉を凶に醸す勿れ東西凶「三碧」外見からは吉なるも内心に苦勞の起る事あれば病氣怪俄に注意して未申と丑寅が凶「四緑」水火の難に注意して進めば

大利を得る日但し公事にも注意南北凶「五黄」營業其の他萬事吉只水火の難に注意して南北凶「六白」古きを捨て新金に進まんとする件は明日吉只病氣怪俄に注意未申丑寅凶「七赤」金錢問題より家内に口舌の起る事あれば望事其の他も猛進する勿れ東西凶「八白」金談縁談共に大吉利を得る日戌亥と辰己は凶なり「九紫」沖中の小舟の如く此の件は何岸へ着け様かと云ふ問題の起る凶日なれば萬事に注意して現状維持が吉也

お醤油は.....ヤマフル

醤油味噌
 たひら正宗
 鯉節 食料品

鹽屋
 山崎合名會社
 福島縣平町電話營業部醸造工場
 明治生命磐城代理店 山崎與三郎

金銀高價買入

各國時計・眼鏡・貴金屬

根本時計店

平二（電話六〇七番）

貸切の.....

御用命は!!!

獅子吼四四九ノ勢デ

眞先ニ.....(マツサキ)

三九二タクシーへ!!!

三井タクシー

平町二丁目 電話六八五番



玉屋洋品店
 平町通電話六五六番

内科、小兒科、花柳病科

藤沼醫院

入院需應

平町紺屋町 電話五〇七番

稲刈り始る

江名の早生稻

一般に例年より早い

石城郡各町村の稲作は既報の如く天候順調の影響を受けて成熟期が例年より早く稲の刈取期も例年より五六日早く見られて居るが殊に江名町字上神白部落の早生稻は本十五日より刈取を開始し郡下のトップを切つて驚かした

信用組合

民謠審査

石城郡勿來信用組合では組合思想普及を計る民謠を一般より募集中であつたが応募者百十餘名に達したので来る十八日同町小學校で審査會を開くと

實る穂を眺めて

米價統制法待望

厄日も平穩無事に過して

石城郡下の水稲は二十日及び二十日の兩厄日も無事平穩に經過して澤渡、三坂の山間部を除き其の他一般はいずれも穂孕み期を過ぎて居る爲め平年作の十六萬二千石より二割増しの十九萬四千四百石餘の増収を豫想されるので十一月一日より米價の低落維持を目的として實施される米價統制法を地主小作人共に待望して居る

海外發展に

平町が便宜を圖る

平町役場ではブラジル移住民に就いては極力便宜を圖り海外殖民事業の發展を期すべく近く各區長を経て移住希望者の調査を行ふ事になつたが希望者は左の資格を要すると

一 ブラジル移民は家族移
民で五十才未満の者の

近縣水泳

警中の選手

既報警中水泳部では来る二十四日水高主催の下に開催される近縣中等學校水上競

技大會の選手を左の如く決定来る二十三日中柴、谷澤兩教諭引率の下に出場すると

- (百米、二百米自由型) 菅野 佐藤(同四百米、八百米) 澁谷 庄司(五十米、百米背泳) 志賀幸 水野(百米、二百米胸泳) 志賀貞 國井(二百米リレー) 菅野 佐藤 志賀幸 澁谷(八百米リレー) 菅野

小川江筋改修は

本月下旬に開始

既報石城郡小川江筋水路の改修は八九兩年度に於いて工費十萬圓を以つて工事を進めべく準備中であつたが此程大體の調査も終つたので去る十二日縣耕地課の近

濱三郡軟式組合せ

昨夜キャプテン會議で決定

既報第三回軟式野球大會は愈々来る十七日午前八時より警中、平商、第一の三球場で開催されるが昨夜大塚運動具店でキャプテン會議を開いた結果第一回戰の組合せを左の如く決定した

- 平イーグル 全浪江 湯本 勿來 三丁目 不戦一勝 隅田川 同 四倉 同 綴俱樂部 綴探炭 富岡 新山 警炭運輸 平遞友

筆剣軟式野球

平町 各日刊新聞記者對警察署

草野産米

生産費調査

石城郡草野村は予てより農林省の米穀生産費調査指定村とされて居たが本十五日縣の石井農林技手が第一回産米生産費調査を行つた

土木委員

明日協議

平町役場では明十六日午前十時より會議室にて土木委員會を開き左記三件を附議する

- 一、町有地貸付に關する件
- 一、道路占用願に關する件
- 一、道路拂下願に關する件

粘土釜を

校庭に設備

平第二校では現在一年より五年迄の手工として粘土細工を課して居るが先崎、渡邊の兩訓導は過般の夏休みを利用して同校東隅に市四尺長さ五尺の粘土釜を設置し今後は細工員全部を陶器化する事になつた此の釜の設備は郡下各校最初のものである

有權者名簿

本日現在

平町役場では本月十五日現在を以つて町會議員及び衆

着小道(平町某) 二十以下 尋卒 月五圓(平町某) 女中 二十前後 尋卒月五圓(平町某) 回職を求める方 看護婦見習 十九才 産婆校卒 給料二圓(湯本町某)

△難夫 四十六才 尋四修 給料面談(内郷村某) △店員 二十才 青年校卒 給料面談(神谷村某) △料理人 二十三才 中卒 給料面談(鳥取縣某)

巖谷先生!

川崎小鳥

慚愧に耐えぬ思ひ出。酒に就いては先生に關連して、自分の思ひ出がある。それは僕が十八歳の時初めて童話の小品を書いた原稿紙五枚ばかりの短いものである。標題は「春を待つ花の心」一應先生に御覽を願ふ約束になつて居たので、博文館に電話を掛け御都合を伺ふと、其晩講演の爲めに静岡へ出掛けるので會へない、但し原稿は「山内」に見せて置けとの事であつた。

△山内とは先生門下の逸足山内秋生氏である、同君は本縣會津の出身で當時花形の童話作家であつた、現在は日本大學前に大ビルディングを建てた宇野出版社の専務取締役で、中學、女學、ペン字其他の講義録の出版事業に没頭して居る、僕の兄分として今でも親密な間柄である。

△職業紹介所報告 回人を求める方 △小間使 十六才 尋卒月五圓(平町某) △店員 十六才 尋卒月五圓(平町某)

△山内兄は僕の處女作を見て、お世辭には違ひないが結構な出来であると賞めそやし、渡邊光風といふ人が經營して居た雑誌「小學生」に掲載してくれた、挿畫入りで活版に組まれた自分のものを見て僕は有頂天になつたが、夫れにも増して、大枚「三圓也」の原稿料が降り込んだ是れとても巖谷先生の顔に依る事勿論である、而し當時の僕として一角の童話作家になつた積りか何んがだから今思ひば冷汗三斗である。

△初めての原稿料——年長の山内兄が祝杯を舉げて前途を祝さうとの言に二も二もなく承知して、其頃東京には今の様にカフエー等はない、漸く居酒屋に代るバーの看板が新らしく都人士の眼を引いて居た頃なので、本郷の或るバーの二階座敷に陣取つた。

△此處で少年の僕は生意氣にも初めて酒の味なるものを知つた、爾來斗酒尚ほ辭せぬ大酒呑みになり終せて、先生にも不義理し、人にも心配や迷惑を掛け、慚愧に耐えぬ幾場面かを展開した。

△童話作家變じて大酒呑みとなる——餘りに運命は皮肉な惡戯を演じ過ぎる。しかし既に此の惡酒と絶縁して十年にも問もない今日酒杯の動機は過去の懐しい思ひ出の一つとなり、又關連して先生に對する追憶の涙新らたならしむるものがある。

鐵道との消防聯絡 鐵相へ進言

井上消防組頭から

鐵道沿線各驛と其の所在地市町村との消防施設には從來何等の統制なく殆んど没交渉の状態に置かれてあるが是れでは火防上連日市街地に及ぼす影響が甚しく、各驛と市街消防とは機械器具の合一統制を必要とする。平消防組頭井上茂作氏は大日本消防協會理事の資格を以て三土鐵道大臣に此程意見書を提出したが其の要點は左記の如くである。

一、水道消火栓の取水口器具右に廻轉する在り左に廻轉するあり其接手金具も亦捻式あり、發條式あり悉く一定せず之れを合一統制せざるは水害の結合連絡を断り放水不能に至る。二、鐵道線路附近に火災惹起したる場合水利關係を主として線路を横断し水管を軌上に布延するの已むなき場合あり此時列車進行し來り水管は列車の蹂躪に依り破裂し放水不能に至ること往々其例あり列車は時間的に停止するを得ず消防操作も亦時間的に最初の一分一秒を大事とし人命救助財產擁護の任を完全に盡し得る否哉の分岐點に際し相互に不便甚敷此等の解決促進を必要とする。

トラホームの割合 一二六二(九、五五)△花柳病の割合〇、五九(〇八九)△志願者 八一二(六六六)

不働尊の餘興 平胡摩澤不動尊の祭典は明日執行されるが餘興としては東京剣心會の劍劇レビューがある。

時局の反影から

志願者激增

壯丁の平均成績

過般平第一校講堂で執行された石城郡下本年度壯丁検査の平均成績は左の如く前年に比し良好である。殊に志願者は昨年六百六十一名に比し今年八百十二名の多きに達してゐるのは時局の反影と見らる。(カッコ内は昨年)

△身長 一五九三米(一五八八米) △體重 五二八八斤(五三〇三斤) △甲種合格の割合 三五、一三(三三、六)△

道路の隠れた恩人

優良工夫五名表彰

自動車協會の石城支部

銀時計を贈る

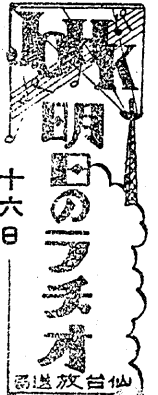
自動車協會石城支部では土木監督所管内左記優良道路工夫五名に對し本日平署會議室に於いて感謝状に銀時計を添へて表彰したが表彰された優良工夫左記の如くである。

- 平町藤野房吉 好間栗山 福治 同志賀忠太郎 夏井坂本清吉 内郷遠藤末三郎

訓練旗樹立

湯本町青訓で

石城郡湯本町青年訓練所で



明日の天才 十六日 今夜は北東の風 晴曇半し明日は南東の風雲

今晚の部

- 後六、〇〇(子供の時間) 童謡 獨唱新島弘 服部悦子 齊唱 長谷山 雛菊音楽會員
- 後六、二五 基礎佛語講座 (二) 目黒三郎
- 後七、三〇 講演「問題は何であつた」名古屋醫科大學教授 醫學博士 長松

温室に櫻草

平第二小學校では中庭に温室を建設する爲め目下工事中であるが最初に櫻草を植付け情操教育に資する豫定である。

無心の幼女が線路に遊び

下り旅客列車急停車

去る十三日午後二時頃常磐線下り二〇三旅客列車が草野四ツ倉間を進行中線路内で草野村宇砂田四九渡邊築治郎次女セツ(四)が危険信號の汽笛も知らずに遊んで居るので急停車をなし危く難を避けたが是れが爲め同列車は二分遅延した。

磐中平商 正副級長

- 磐中(一)白土弘 伊藤中(一)名尾卓朗 馬目一郎(一)三山崎道雄 志賀純一(一)四根本忠雄 根本芳弘(一)五山野邊武 野木孝司(二)一〇小松明生 鈴木木洋三(二)一〇山名光男 渡部忠雄(二)一〇志村憲

明日の部

- 前六、三〇 基礎佛語講座 (三) 橋本忠夫
- 前九、一〇 料理献立「冬のふろふき」小林忠雄
- 前一〇、三〇 家庭講座「葉蘭の活け方」小島泰次郎
- 後〇、〇五 琵琶「臺灣入」矢野鶴秀
- 後一、一〇 野球試合實況「東京大學野球聯盟対リッパ戦」大田治 帝大立教 神宮球場より中継
- 後二、〇〇 婦人講座「女性と宗教」文學博士 鷺尾順敬

裁判所だより

△石城郡川部村大字沼部字宿一三大工職菅谷馬次(三)が無免許でダイナマイトを使用し船ダブ等を捕獲した銃砲火薬類取締令違反並に漁業法違反の公判は本日午前十時より平區裁判所に於て關口判事係り三堀檢察立會の下に開廷事實訊問の上検事より懲役二ヶ月罰金二十圓を求刑あり判事より罰金四十圓の判決言渡され

平町人事

- △出 生 二男雄幸 瀧内延季氏
- △結婚 回 瀧内延季氏 瀧内延季氏
- △東京市蒲田區新宿町四九〇鈴木菊次氏(三〇)胡摩澤一四堀フク(二九)



【禁無斷轉載上演映畫】

寶馬 井馬 琴演
山本 英春 畫

第四十一回 血に飢ゆる村正

籠釣瓶の祟り

み「夫なき者ゆえ思召しに
從へとの仰せにはございま
するが、假令落命するとも
一旦馬淵源十郎に嫁した上
は、他に男子あることを辨
まへざる此身、女子の操と
いふ事を思召し下さらば御
勘辨下さるやう、忠臣は二
君に仕へず、貞女は二夫に
見えすとやら申す教へもご
ざいますれば、其邊御賢察
を願上奉つります、御言
葉に背きながら斯様な御席
を汚しますは、却て恐れ
多き事ゆえ、此儘御免を蒙
ります」

と憚る色なく申陳べて其
場を立たうとするおみち、
正則之を聞くと勿ちカッ
怒りを發し、
正「待て、何ぢや、小
賢しき事を申す者かな、身
分輕き者なれども、心に從
はせんと思へばこそ是へ招
いたのぢや正則は忠臣貞婦
の道知らぬかと云はぬばか
りの一言、不埒至極、殊に
今其方は心あつて正則の面
部を打つたのであるな、福
島左衛門太夫正則總髮の昔
より今日に至るまで、人に
面部を打たれた事はな、
然るに汝過つたる態、いた

して、正則を恥か、しめた
る爲無禮を加へたに相違な
い、キツト其の罪を糺すに
依つて左様心得ろ」
と忽ち一刀を取つて立上
りに相成りましにから老臣
吉村又右衛門始め、各々是
れはと驚き、御留め申し



上げるを耳にも掛けず、突
然左の手におみちのかみを
取つて、スル／＼と船縁の
邊へ引据え水も留らぬとい
ふ所から籠釣瓶と金銘打つ
たる村正の一刀を抜く、

早くおみちの襟元をズブリ
と刺した、アツと云つて大
守の御顔を恨めしげに打ち
跳め苦しき聲を張り上げて
み「如何に思召しに從はぬ
とて斯様残酷の舉動を遊ば
すとは聞きしに劣る所の暴
將、此の上は一念惡鬼とな
つて崇りをなし、二代とは
福島の家は立たせて置きま
せぬぞ」

をどけたるを、其儘水中へ
投込んで終へました、斯の
如き次第でございませうから
其日の御遊覽は滅茶苦茶に
て、正則公は御不興の体
に、御歸城に相成りました
が、御怒りは中々止まず、
後家みらの伴百太郎の儀も
領分追放申付けるといふ御
沙汰、此の儀に就いては老
臣一同様々に御意見申上げ
たが、どうしても聞入れま
せん、據らなく不便ながら
表面百太郎は領分追放とな
りました。なれども若年で
ありますから、其の實吉村
又右衛門が情を以つて大沼
村の百姓友平といふ者に預
け、成長の後はどうかして
其の家を立てさせて遣らう
と云ふ心算でございませう、
是は後に大橋茂右衛門が言
葉の助大刀を以つて江戸表に
て仇討本懐をとげました、
然るに此頃日本浪人と自稱
する蒲生飛騨守の浪人で一
ノ宮監物と申す者がある、
力五人に優り剣術は頗る
名人でございませう、藝洲
廣島へ参りまして御領主を
尋ね、御家中の方と武藝の
試合をしたい、と申し込ん
だ、福島の家來に武藝者も
多くございませうが何しろ
對手が浪人者勝つたればと
て別に手柄にもならず萬一
不覺を取る時は殿様よりど
の様な事を仰付られるも知
れんによつて危きに近寄ら
ずと思ひましたが、何れも
病氣を名として一ノ宮監物
と試合を致す者が御座いま
せん、此時正則の氣性愈々
御立腹遊ばし多く劍士を養

人に均しき有様であるから
近寄つて意見でもいたさう
とすれば徒らに刃に觸れて
犬死にをいたさなければな
らず、哀れむべし貞婦おみ
ちに於いては姪に無殘の死

ひ置くに今日蒲生浪人一ノ
宮監物との高名に恐れ、一
人も試合する者はないか、
此上は正則自身に立合をい
たさうとまで仰せられた時
に、遅れ走せに罷り出でま
したのが都築左衛門高良と
いふ人物、正則之を見るよ
り
正「武左衛門其方も病氣
か」
と仰しやる、武左衛門顔
色を變へ
都「怪しからん御意を承ま
はりますものかな、何で病
氣かとおたずねになります
か」
正「今日聞き及んだであら
う蒲生浪人一ノ宮監物當地
に足を入れ武藝者と試合を
致したき由しを申入れた、
然る處一流の指南を致す者
大勢ありながら何れも病氣
ぢやと申して試合をいたす
者がない故其方も矢張病氣
かと心得た」

花柳外科 木村外科醫院
門專 院醫科外村木
際橋目丁五町平 りあ便の院入炊自
○九三話電

高久病院
院長 醫學士 高久 忠
副院長 新潟醫學士 赤羽 清
藥局長 藥劑師 佐竹 菊雄
内科小兒科 外科花柳病科
耳鼻咽喉科 レントゲン科
平町田町 電話五三三番

吸入用酸素純度 99%
度量衡 モノサシ
ハカリ ス 体温器
秤ノ取緒・垂糸・修繕致シマス
寒暖計
關内藥局 電話四〇番
寫真材料一式販賣致シマス
胃腸病藥の王座を占むる純漢法藥

靈効散 (無効返)
松前 家傳
ホントに北海道で出來た靈藥が着荷致しました。
今迄のは福島市内で製藥したので兎角の批評があり
ました。今度のものは眞正のもので奏効確なもので
す。服用しなくては其の眞價が判りませぬから、皆
様見本品を差上げます。御遠慮なくいらつしやつて
下さい。見本品でも二日間飲まれますから胃腸
に苦しむ方、輕病・心臓・痔疾の方は是非御試し下
さい。クセにならず根治致します。小兒用の靈効散
も出來ました。
定價 試用分(八日分) 樽症用(廿日分)
重症用(四十五日) 樽症用(壹圓)
販賣部 地方代理店 阿康藥舖
平町古鍛冶町縣社ノ下
電話四四番